

2016
(平成 28 年)

1

No. 124

Miyakojima City
Public Relations 広報

みやこ
じま



寒空に灯る 暖かなツリー

クリスマスイルミネーション・カママ嶺公園多目的広場 (1/6まで)



宮古島市イメージキャラクター
「みーや」



今月の主な内容

- 新年のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2~4
- 今年の主な話題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5
- 宮古島市の重大ニュース・・・・・・・・・・・・・・・・P6
- 20歳になったら国民年金に加入しましょう・・・・・・・・P8



新年 賀 謹



心豊かに安心して暮らせる島づくり



新年あけましておめでとうございます。希望に満ちた、輝かしい新春を迎えるにあたり、市民の皆様に、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、市政運営に対する格別なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。昨年は、1月に圏域住民の念願でありました夢の大橋「伊良部大橋」が開通し、伊良部地区の住民の皆様が生活環境の改善はもとより、島外から多くの観光客が訪れ、観光資源として本圏域の経済活性化に大きな役割を果たしています。そして、10月には市制施行10周年を記念して、島内外から多くの方々参加の下、記念式典、祝賀会を開催すると共に、フラダンスのギネス挑戦や宮古ふるさとまつりなど、多くの記念事業を開催し、各関係機関の皆様のご支援、ご協力の下、市民と心をひとつにして10周年を祝い、更なる発展に向け、決意を新たにいたしました。

未来に向けて新たなスタートを



新年明けましておめでとうございます。宮古島市議会を代表いたしまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は宮古島市議会に対し、温かいご支援と深いご理解を賜り、厚くお礼を申し上げます。皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。さて、昨年の宮古島市を振り返ってみますと、伊良部大橋の開通で一年が始まり、また合併10周年を迎えて、祝賀会や多くの関連行事が開催され、大変にぎやかな年であったと存じます。特に伊良部大橋の開通は、観光の新しい目玉として観光客の増加に寄与しております。今年も引き続き、観光資源として、観光産業を始め地域振興を牽引していくものと期待しております。

今年には「みね年」です。「丙申(ひのえさる)」だそう。干支の「申(さる)」という文字は、樹木の果物が熟して固まっていく様子を表しており、「丙申」の年はこれまでの頑張りや形になっていく年だそう。宮古島市においても、合併十周年でこれまで、環境、

宮古島市長 下地 敏彦

事が着工し、更には長年の懸案事項であった新ゴミ処理施設の供用がいよいよ開始される等、市民の生活環境整備を着々と推進しております。

また、引き続き本市の基幹産業である農林水産業、成長著しい観光産業を更に推進すると共に、宮古島市の将来を担う人材の育成を図るため、教育環境の整備などについても積極的に取り組み、子どもからお年寄りまで、全ての市民が、心豊かに安心して暮らせる島づくりを進めてまいります。市町村合併から10年を経て、一体的な行政サービスの構築と基盤が整備されつつあり、旧5市町村が育んできた風土や伝統、振興策を継承し、「こころつながり結いの島宮古(みやこ)」の理念の下に、私の市政運営のテーマである「地域の均衡ある発展」の実現を目指し、山積する行政課題の解決に取り組みまいりますので、今後とも市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

宮古島市議会議長 棚原 芳樹

結びに、今年一年が、市民の皆様にとりまして、健康で幸多い年となりますよう心より祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

交流、文化、健康、生活基盤、自立、この6つの単語をキーワードとした新市建設計画の目標に向け、行政と市民の皆様との協働により、施策の実現に取り組んで参りました。その成果が芽を出し始めており、合併11周年の今年、これからの10年間の新たなスタートの年でもあります。

宮古島市議会といたしましても、宮古島市がより豊かで活力があり、魅力あふれるまちづくりに向けて、市民の皆様のご負担に配慮するよう取り組んで参る所存です。結びに、丙申の今年、未来へ向けて良い形ができあがっていきますように、本年が、皆様そして宮古島市にとってより良い年であることを祈念申し上げ、年頭の挨拶といたします。

市長	下地 敏彦
副市長	長濱 政治
教育長	宮國 博
企画政策部長	友利 克
兼振興開発プロジェクト局長	
観光商工局長	下地 信男
総務部長	村吉 順栄
福祉部長	譜久村 基嗣
生活環境部長	平良 哲則
農林水産部長	砂川 一弘
建設部長	下地 康教
上下水道部長	砂川 康教
伊良部支所長	川満 勝彦
教育部長	仲宗根 均
生涯学習部長	奥原 一秀
消防長	来間 克
会計管理者	宮國 高宣
議会事務局長	上地 栄作
他職員一同	

議長	棚原 芳樹
副議長	垣花 健志
議員	濱元 雅浩
議員	平良 敏夫
議員	下地 勇徳
議員	眞榮城 徳彦
議員	栗国 恒広
議員	仲間 頼信
議員	上里 樹
議員	高地 廣敏
議員	仲間 則人
議員	西里 芳明
議員	富永 元順
議員	高吉 幸光
議員	新城 元吉
議員	亀濱 玲子
議員	佐久本 洋介
議員	下地 明
議員	平良 隆
議員	前里 光惠
議員	山里 雅彦
議員	池間 豊
議員	下地 智
議員	新里 聰



NHKのど自慢 16年ぶりに開催 (1月10日)	市制施行10周年記念事業の一環として、NHKのど自慢が1月10日、マティダ市民劇場で開催される。宮古島市での開催は平成11年の開催以来16年ぶりとなる。今回のゲストは、大物人気歌手の五木ひろしさんと水森かおりさんとなっている。
池間地区防災センター完成・供用開始	海拔の低い池間地区で整備を進めている池間地区防災センターが完成する。一括交付金を活用して9千3百万円あまりをかけて整備される池間地区防災センターは、与那覇地区、伊良部地区に次いで今回3件目。津波等の災害時の住民避難施設となる。
平良児童館完成	地域子どもたちの居場所づくり等を目的に旧県立宮古病院跡地に隣接して整備を進めている平良児童館が完成し、4月には供用開始となる。総工費は、1億4千137万円余。
宮古島市未来創造センターの建設工事が始まる	図書館機能と公民館機能を併せ持った宮古島市未来創造センターの建設工事が始まる。平成30年4月の供用開始を目指して工事を進める宮古島市未来創造センターは、旧県立宮古病院跡地に総事業費約40億円をかけて整備される。
個人番号カードの交付スタート	個人番号カードいわゆるマイナンバーカードの交付が、1月以降、順次スタートする。マイナンバーカードによって、市役所窓口での各種手続きやオンライン申請が便利になり、本人確認の身分証明書としても活用できるようになる。
地方創生総合戦略策定	活力ある宮古島市づくりを進めるための、具体的な事業計画を盛り込んだ「宮古島まち・ひと・しごと創生総合戦略」を3月に策定する。現在策定作業を進めているが、どれだけ実効性のある効果的な事業が盛り込めるかが重要になる。
クルーズ船寄港大幅増加	平成28年の平良港へのクルーズ船の寄港回数は、一気に増え72回の予定となっている。平成28年の平良港へのクルーズ船の寄港予定は、スーパースターリブラ号、スーパースターアークエリアス号、ゴールデンプリンセス号、パステイクビーナス号。平成27年の13回から一気に増える見込みとなっており、受け入れ体制の整備を急ぐ必要がある。
全日空2月から1往復増便及びJTA2月より機材拡大	全日空が、平成28年2月1日から3月26日までの期間宮古・那覇間を1往復増便し従来の6往復から7往復とすることを発表した。また、JTAも平成28年2月10日より機材拡大を行い座席数を従来より20席増加することを発表した。本市の航空路線は、スカイマークの撤退と観光需要の増大等によって満席状態が続き、住民の足としての利便性が低下しつつあり、需要の多い年度末の増便及び座席数の増加は朗報と言える。
新ごみ処理焼却施設供用開始	平成26年6月に着工した、新ごみ焼却施設は、施設本体の建設工事が平成27年12月に完了。消防検査、建築確認検査等を経て、平成28年1月に火入れを行い、負荷試験運転後、本格的な供用開始は平成28年4月からとなる。
宮古島市文化ホール(マティダ市民劇場)開館20周年	劇場型多目的芸術ホールとして平成8年5月に開館したマティダ市民劇場は、今年で20周年を迎える。今年は一般を対象とした「劇団びん座」を立ち上げ、3月に公演を行う。
第32回全日本トライアスロン宮古島大会開催	参加定員が前大会より200名増の1700名に！
沖縄県消防指令センター運用開始	県内14本部及び12非常備町村が共同運用を進めてきた、沖縄県消防指令センターが平成28年4月から本格運用が始まる。宮古島市からの119番通報を沖縄県消防指令センターで受けることとなります。
伊良部島での国営かんがい排水整備事業が始まる	これまで仲原地下ダムから伊良部大橋までの整備事業が行われており、平成28年より本格的に伊良部島での整備事業が行われる事になっている。これにより、農業生産の基盤となる水利条件が整備され、農業用水の安定供給等に繋がり、伊良部島での農業の更なる発展に期待が持てる。
下地島空港の利活用事業が大きく動き出す	県は下地島空港の利活用について、プライベートジェット機受入れ、パイロットの育成訓練、リゾート展開などを提案する各事業者と最終的な詰め協議を進めている。市はこれまで国際線の就航を視野に入れた下地島空港の利活用を要請してきており、国際線の就航をはじめ、幅広い空港機能を備えた本格的空港としての利活用に向け大きく動き出すことが期待される。

「教育環境の更なる向上」を目指して

宮古島市教育委員会

教育長 宮國 博

新年あけましておめでとございます。市民の皆様におかれましては、希望に満ち溢れた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本市教育行政に対し、格別なるご指導、ご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。昨年は、圏域住民の念願でありました伊良部大橋が開通し、生活の利便性の向上、観光産業・地域経済の活性化に大きな転機の年となりました。

また、市町村合併10周年の節目の年で、これまでの教育行政を振り返りながら本市教育行政の重要施策である学力向上、子育て環境の改善、学校規模適正化、生涯学習、文化振興等の課題解決に向け邁進してまいりました。

特に学校規模適正化につきましては、鏡原小学校と宮原小学校を統合し、過小規模校・小規模校の教育環境の整備・充実に取り組んでまいりました。伊良部地区小中一貫学校「結の橋学園」学校建設においては、教育課程の基本構想が策定され、更に、校地取得や施設の基本設計等の予算が計上され、学校建設に向けて一歩踏み出しました。

子育て環境の改善では、平成26年度からスタートさせた預かり保育を全園児を対象に拡大し、子育て世代の負担軽減を図る等教育環

境の整備に努めてまいりました。

生涯学習、文化振興の面では、生涯学習フェスティバルの開催や、これまでの総合文化祭を例年より規模を拡大して行っているところであります。

児童・生徒のスポーツ・文化面での活躍も大変喜ばしく、保護者の皆様、地域の皆様方のご支援の賜だと心より感謝申し上げます。次第でございます。

教育行政を取り巻く環境が大きく変化する中、市長と教育委員会の協議の場である「総合教育会議」が設置され、地域の実情に即した教育、学術及び文化の振興に関する総合的施策と位置づける「教育大綱」が協議・策定されたことから、今後、この大綱の下に教育行政を進めてまいります。

今年も、「郷土の文化と自然に誇りを持ち、心豊かで創造性・社会性・国際性に富む人材育成と生涯学習の振興」を基本理念とし、山積する教育行政の課題解決に取り組むとともに、市民の皆様方の期待に添うべく教育委員会一丸となって教育の振興を図ってまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年が市民の皆様方にとりまして幸多き年でありますよう心よりお祈り申し上げます、新年のあいさついたします。

宮古島市教育委員

委員長

佐平 博昭

委員長

佐和田貴美子

職務代理者

野原 敏之

委員

佐和田 勝彦





夢の伊良部大橋開通（1月31日）

市民が長く待望していた伊良部大橋が、1月31日開通し、開通式典に続いて、伊良部地区・久松地区から選ばれた三世代夫婦を先頭に渡り初めが行われた。総工費395億円をかけて建設された伊良部大橋は、全長4,310メートル、橋梁部分は3,540メートルで、無料で渡れる橋としては国内最長となる。

肉用牛競り販売実績過去最高の33億2307万円を記録（3月19日）

宮古地区の平成26年度肉用牛競り販売実績は、全国的な子牛（素牛）不足等を背景に、これまで最高となっていた平成25年度実績を1億3千万円上回る33億2307万円となり、過去最高を更新した。平成27年度も高値傾向が続いており、更に従来の販売記録を更新する可能性が高い。

スカイマーク航空宮古路線から撤退（3月29日）

平成23年9月に宮古-那覇路線に就航し航空運賃の低価格化を先導してきたスカイマーク航空が、経営難等を理由に3月29日、宮古-那覇路線から撤退した。これによって宮古の住民の間には、航空運賃への影響を懸念する声があった。

子宮頸がんワクチン副反応疑い接種者への渡航費等助成支援実施

市は6月から子宮頸がんワクチンによる副反応の疑いのある接種者を支援するため、渡航費や医療費の助成制度をスタートした。この支援制度は県内の他の自治体や、県の支援策に先駆けて行われるもので、これと同時に全接種者の実態把握のためのアンケート調査も実施した。

宮古島市全戦没者追悼式を初めて開催（6月23日）

慰霊の日に併せて、6月23日、市主催の「宮古島市全戦没者追悼式及び平和記念式典」が初めてマティダ市民劇場で開催され、下地敏彦市長が平和宣言を行うと共に、多くの市民が参席して恒久平和への誓いを新たにした。

地域経済活性化を目指しプレミアム商品券販売（7月7日）

地域経済の活性化を目指し、宮古島商工会議所は、7月7日から4種類のプレミアム商品券を販売した。プレミアム商品券は、国の地域住民生活等緊急支援のための交付金を活用して行われた。これによって新たに3億5千万円程度の消費が生まれた。

クルーズ船が定期入港（7月28日）

スタークルーズ社の大型クルーズ船「スーパースター・リブラ」号が、7月28日平良港に入港した。大型クルーズ船の平良港への入港は2008年以来となる。週に1回、10月末まで13回の入港があり宮古の観光客増加に大きく寄与することになった。

スポーツ観光交流拠点施設建設工事着工（8月30日）

スポーツ観光交流拠点施設の建設工事合同安全祈願祭が、8月30日、空港東側の建設予定地で行われ、市や工事関係者など大勢が参加して工事期間中の安全を祈った。市が一括交付金を活用して整備するスポーツ観光交流拠点施設は、5000人収容可能な施設で、総事業費は43億円余り。供用開始は平成29年4月を予定している。

サンエー、スポーツ観光交流施設に隣接して大型出店計画を発表（8月31日）

株式会社サンエーの上地哲誠社長は、8月31日に記者会見を開き、市が宮古空港東側に建設を進める宮古島市スポーツ観光交流拠点施設に隣接して大型の店舗「サンエー宮古島シティ」の出店計画を発表した。計画では2018年の春頃に建設工事に着手し、2019年秋のオープンを予定している。

宮古島市市制施行10周年の節目を迎える（10月1日）

平成17年の合併から10年の節目を迎えた宮古島市は、合併記念日となる10月1日に、「市制施行10周年記念式典」と祝賀会を開催し、市民や多くの関係者が出席して、10周年の節目を祝うと共に市の更なる発展に向け決意を新たにした。

ハワイ州マウイ郡姉妹都市締結50周年で郡長一行来島（10月2日）

市とハワイ州マウイ郡の姉妹都市締結50周年を祝う記念式典が、10月2日、市役所平良庁舎ロビーで行われた。式典にはマウイ郡のアラン・アラカフ郡長らも参加し、50年の節目を祝うと共に今後ますますの交流発展を祈念した。

伊良部大橋でフラダンスギネス世界記録1500人を達成（10月3日）

市制施行10周年記念行事の一環として、10月3日、伊良部大橋で、同時にフラダンスを踊る人数の世界記録を目指したギネス記録挑戦が行われ、これまでの1487人を上回る1509人によるフラダンスが認められギネス世界記録に認定された。

沖縄県畜産共進会36年ぶりに宮古島開催（10月25日）

市では36年ぶりの開催となる第41回沖縄県畜産共進会の肉用牛部門が、10月25日、JAおきなわ宮古家畜市場で開催され、県内各地区から選抜された優良牛が優劣を競った。宮古勢では、成雌1類の部で下地文男さん所有の「ゆりこ」号が優秀2席に入るなどの活躍を見せた。

